

②

私たちの班は、企業大学訪問で東京大学の隈研究室に所属する学生の方を訪問した。私は以前から建築やデザインに興味を持っていたので、一度当事者に会い、話を聞きたかったからだ。

この訪問で最も私の印象に残ったことは、建物を設計するとき使用するコンピュータソフト「CAD(キャド)」を初めて見たことだった。それは、初めて見た実際の設計に対する驚きと感動の連続だった。

まず、思い描いた様々なものを、三次元で立体的に図式化できることだ。過去に設計した建物の図を見せてもらったところ、外観から内部まで、非常に細かく表されていた。複雑な曲面やエスカレーターの位置取りでさえも。そしてその様子をマウスのスライドによって様々な方向から見て、検討することができる。

想像を超えるものだったが、いつかこの世のどこかに建設され、誰かが使うかもしれない。それを踏まえると、私はこのように使い勝手を考えてデザインすることは当然といってもいいのだろうと思った。

次に、実際にCADで一からものをデザインする過程を簡単に見せてくれたことだ。伝統的な楽器の鼓を例にデザインを見せてもらった。

どんな物にしても、最初はただの点から始まる。まず半径の等しい2つの円を出す。次に、鼓の紐が通る穴を決めるために、円周を分割する。そして2つの円の分割した点を結び、円を少し回転させて基本的な形ができる。

難しくない手順だが、この中にCADがいかに万能で便利なものかということが感じられた。半径・円の分割・回転の角度などの条件を全て指定し、その条件下でどういう形になるか何回も試せる点が素晴らしいと思った。それらの条件を与えるためのパーツのようなものを組み合わせたものはまるで電気回路のようなもので、たいへん驚かされた。今の私は英語力が十分でないこともあって概要を理解した程度だ。しかし、CADに関してほとんど知らなかったときに比べて、今回実際に見せてもらったことは大きな収穫だった。私が大学の工学部に入学して、自分の手で建物をデザインするときがより楽しみになり、待ち遠しくなった。

CADの説明をしてもらった後に、私たちからの質問に答えてもらった。また、建築についてためになる話をいろいろ聞いた。

最初に、「建物の設計をするのに重要なこと」について、「1人で全部をするのは無理だ。部品を分担し、様々な分野の専門の人と共同で作業をすることが大切。」と答えてくれた。確かにその通りだと思った。研究室の中を見たときも4人ほどで大規模な建物について一緒に考えていた。国立競技場のようなものならば、複数の企業・行政との協力が必要になるのは、話を聞いてよく理解できた。それに、色々な人と共同で行えば、それだけ他人の考えから学んで自分の進歩にもなるかもしれない。その意味でも複数の人と共同で作業することは意味があると思う。私も将来はこのようなことができるようになればと思った。

次に、「デザインが思い浮かばないときどうしているのか」ということについて、「人にもよるけれど、7割くらいはデザインに悩み、3割くらいで仕上げる。」と。むしろ悩んでベストのものを出したほうがいいのかと思ったが、必ずしも時間と努力が比例するとは限らないそうだ。7割も悩むというのは意外に思ったが、それだけ1つのものをデザインするのは大変なことなのかもしれない。

最後に、「私たちが今からできること」について、「身近な建物を使い方からデザインを推測したり、何故こんな構造になっているのかを考えることが大切だ。」と。建築を志して何をしたらいいのか分からなくてウズウズしていたが、これを聞いて道が開けたような気がした。例えば、仙台メディアテークは建築的には面白い建物らしい。以前はただ変わった建物だなと思って入るだけだった。だが次回入るときは、もっとそのデザインや構造に注意して観察していきたい。もちろん他の面白そうな建物も探して、高校生の間に多くの建物を見てみたいと思う。

このように今回の訪問では、将来志す建築について、参考になることをたくさん教えてもらった。実際の研究室の雰囲気も十分感じられた。短い時間であったが、とても充実していたし、彼を訪問してよかったと思う。時

間の関係上せっかく紹介してくれた表参道のスターバックスと横浜大榎橋へ行けなかったが、休みの日を利用して必ず見に行きたい。これからはもっと建築に親しみを持って生活していきたいと思った。

③

夕食を終えた後、若干の眠気はあるものの私は OB・OG との懇談会に臨んだ。懇談会では、3 人の二高 OB で東大生の方々と高校生活の過ごし方や大学受験、大学生活などについて会話をした。

1 人目は、文科二類から経済学部に進学した先輩だ。学習面については、「自分の強みを知ろう」という言葉が印象に残った。私はこれとって自信を持てる科目がないが、数学は大好きなので、数学を重点的に勉強して強みになるようにしたいと思った。

大学について、東大だけの話ではあるが、科類別に 3・4 年次に進学できる学部の定員が決まっていることに驚いた。Ⅰ～Ⅲ類に分かれているのは何故だろうと思っていたが、理由が分かって本当によかった。私は工学部を志望しているが、類制の大学ならば定員の枠を考えて志願するようにしたいと思う。

2 人目も、同じく経済学部の先輩だった。学習面は、「目標は早く、高く設定しよう」という言葉が印象に残った。意識を早い時期から高めることで、勉強へのやる気上がるのだ。私はまだ志望校を決めていないが、まず東大を目標にしたいと思う。本気で勉強して東大が無理だと分かっても、その他の選択支は広いからだ。

大学生活は、「1 人暮らしなど、やって見たかったことができる。」という話をしてもらった。私も、仙台以外の大学に進学したら、1 人暮らしをしたい。社会人になる前に、衣食住はまともにできる人間になりたいし、気ままな生活にも憧れるからだ。慣れるまで時間はかかるかもしれないが、強くなるために経験しておきたい。

3 人目は、工学部の先輩だ。高校生活について、「好きな本を読み、英語を頑張ろう。」というアドバイスをもらった。私はあまり本を読まないが、最近読書の必要性を感じつつある。この夏休みで、良い本に出会えば無理なく読み切れることが分かったので、これからも継続していきたい。英語は、少し前まではあまり意識していなかったが、大学では、英語で会話したり、英語力が必要な場面が理系でもたくさんあることを知った。大学入試のためだけでなく、その先のことも考えて英語を勉強していきたいと思った。

懇談会では、東大生の先輩から今まで気づけなかったことについて色々教えてもらい、今後の高校生活の過ごし方の参考になった。これらのことをきちんと行動に移し、二高生活を楽しんでいけるように頑張りたいと思う。